

Anzu Journal

No. 37



杏林大学総合政策学部杏会

Anzu Journal No.37

Contents

| | |
|-----------------------|----|
| 三役からご挨拶 | 02 |
| 新任教員紹介 | 08 |
| 図書館紹介 | 09 |
| 就職委員会より | 10 |
| キャリア支援 | 12 |
| 情報センター長より | 14 |
| 総合政策学部賞 | 16 |
| 馬田啓一賞 | 17 |
| コロナ対策 | 18 |
| グローバル・キャリア・プログラム(GCP) | 19 |
| プレゼミナール紹介 | 22 |
| ゼミナール紹介 | 24 |
| プレゼン大会 | 31 |
| コンソーシアム八王子学生発表会 | 32 |
| 学際演習紹介 | 35 |
| 読書のすすめ | 36 |
| 修学支援制度のお知らせ | 38 |
| 杏会より | 39 |
| 杏門会より | 40 |
| 編集後記 | 40 |

進路を決めるきっかけとなった アフリカ遊学

総合政策学部長 教授 北島 勉 Tsutomu Kitajima

本年度から学部長を拝命いたしました北島勉と申します。学部長としてご挨拶をさせていただくのは初めてですので、少し長めの自己紹介をさせていただきます。出身は東京で、子供二人が独立したので、現在は、妻一人、母二人、犬二匹、猫四匹と暮らしています。大学では経済学を、大学院では国際問題（アフリカ学）、公衆衛生学を専攻、1991年に杏林大学保健学部助手として入職し、2003年に総合政策学部に移動しました。担当している講義は、医療経済学、健康社会学、Introduction to Global Health Issuesです。研究分野はグローバルヘルスで、テーマはHIVに関連する保健医療サービスの提供方法です。

■大学生の時に会った アフリカの飢餓問題

1983年から84年にかけて、アフリカで大規模な飢饉が発生し、日本でもずいぶん報道されました。「We Are the World」という曲名を聞いて思い出す方もおられるのではないかと思います。当時私は大学二年生で、明確な目標もなく

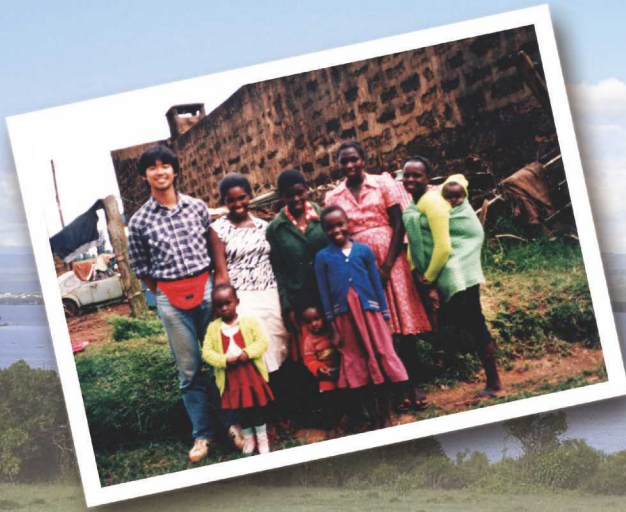
学生生活を送っていましたが、この出来事に影響され、所属していた開発経済学のゼミの仲間とアフリカの飢餓や貧困問題について勉強を始めました。関連する本を読んだり、講演会を聞きに行ったり、アフリカからの留学生の話も聞いたりしましたが、状況がよくわからず、もやもやしていました。そんなとき、国連職員としてアフリカに駐在経験がある先生から、「アフリカに行ってみたら」と言われ、私も「行ってみよう」と思い、ゼミの先生も応援して下さったので、親に無理を聞いてもらい、三年生終了後に一年間大学を休学して、ケニアの首都ナイロビにあった日本アフリカ文化交流協会（当時）の学校に留学することになりました。

■アフリカでの経験

その学校のプログラムは五ヶ月間で、午前中はスワヒリ語とアフリカの社会や文化に関する授業を受けました。午後は自由でしたので、私は、ナイロビ市内を散策したり、日本人駐在員の子供の家庭教師をしたり、英語の私塾に通ったりしまし

た。ナイロビの中心街には近代的なビルが、高級住宅街は広い土地に立派な屋敷が並んでいましたが、スラム街には掘立て小屋が混在していました。週末にはバスでナイロビ周辺の地域を訪ね、連休にはバスを乗り継いで、二日間かけてソマリアの国境の町もマンデラまで行きました。日帰りでソマリアに行くつもりでしたが、地元警察から身分証明の提示を求められた時、パスポートを学校の寮に忘れてきたことに気づき、次の日にナイロビに向けて出発することを条件に無罪放免にしてもらいました。今思うと信じられないミスです。

プログラム終了後は、農村部のお宅に一ヶ月間ホームステイをさせてもらいました。電気、ガス、水道も通っていない地域で、近くの川の水を生活用水として使っており、三石かまどで薪を炊いて料理を作っていました。夕食は家の前の畑でとれた豆を煮込んだ料理というシンプルなものでした。夜の明かりはケロシンを焚いたか細い炎くらいで、本を読んだりできませんが、ご主人とは英語と片言のスワヒリ語で色々な話をしました。月が出てない夜は、



満天の星空に圧倒されたことを覚えていきます。短い滞在でしたが、ナイロビとは全く違う世界でした。女性も早朝から夜まで、本当によく働くのに対して、男性はのんびりしてて、ほとんど仕事をしていなかったのが印象的でした。

残りの半年は、ケニア、ウガンダ、ルワンダ、ブルンジ、タンザニア、エチオピア、ザイル（現、コンゴ民主共和国）、ザンビア、ジンバブエ、マラウイを旅しました。中でも印象に残っているのはザイルです。ウガンダ側から入り、トラツクの荷台に乗せてもらい、熱帯雨林の中を二日間くらい移動して中部にあるキサンガニという町に着きました。パン屋に入ってみるとナイロビでも見たことがない美味しそうなエクレーアやケーキが陳列されていました。まさかジャングルのど真ん中でエクレーアを食べられるとは！旧宗主国ベルギーの影響が色濃く残っていることを感じました。

マラリアにかかったり、詐欺にあったり、大変な思いもしましたが、現地の人たちや旅行や仕事でアフリカに来ていた様々な国の人たちと出会い、時には助けってもらい無事に

旅を終えることができました。訪問先では報道で見たような飢餓の問題には遭遇しませんでした。貧富の格差の大きさを痛感するとともに、国が成長するには人々が健康に暮らせることが大切なのではないか、などと感じたことを覚えていきます。帰国後、もう少しアフリカのことを勉強したいと思い、大学卒業後は大学院に進むことにしました。

杏林大学に入職後、JICA(国際協力機構)のタイの公衆衛生事業改善のプロジェクトに参加する機会をいただき、それ以来、主にタイで研究活動を行っています。いつか、タイや日本での経験をもとに、アフリカでも研究活動ができればと思っています。

■学外の資源も活用した 学びの実現のために

現代はインターネットを介して海外の人と簡単に連絡がとれますし、多くの情報に触れることができますが、実際に現地に行き、人と話し、自分の目で見て感じることに代えられるものではないと思います。

大学での学びにおいて講義が重要なことは論を待ちませんが、学生の皆さんには、学外での様々な資源や機会も有効に活用してほしいと思っています。コロナ禍において、海外渡航は厳しい状況ですが、国内に目を向けると、多くの地域でそれぞれが抱える課題を解決するために、自治体、企業、NPO等が様々な取り組みを行なっています。例えば、学部で学んだことをベースに、そのような地域で一定期間活動に参加することで、異なる文化や新しい価値観に触れ、自分の世界を広げ、キャリアを考える良い機会を得られることと思います。本学部でもそのような機会を提供できるようにしたいと考えています。「かわいい子には旅をさせよ」と言います。保護者の皆様には、ご子息・ご令嬢が慣れ親しんだ快適な場所から一歩踏み出すことを応援していただくと幸いです。

コロナの収束が見通せない状況です。保護者の皆様におかれましては、くれぐれもご自愛ください。引き続き総合政策学部の教育活動へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



コロナ禍の 総合政策学部の教育

教務部長 教授 内藤 高雄 Takao Naito

2020年4月より、6年ぶりに教務部長に就任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

2020年は世界中の人々とつて、忘れられない年になりました。もちろんそれは2020年初頭に中国武漢で発生し、世界中に拡散した新型コロナウイルスの感染拡大によるものです。

杏林大学では2月末から新型コロナウイルス感染拡大に備えて、授業をどのような形態で行うかについて議論してきました。当初はこのウイルスは暑さと湿気に弱いと見られ、GW明けには完全に騒動が収束し、通常通り授業を行うことが可能になると考えました。今から考えれば非常に甘い見通しであったのですが、このような見通しの下、年度初めのガイダンスについては新入生のガイダンスに限定してコンパクトに、10のクラスごとに5回に分けて行うこととし、またGW明けまでの授業についてはUNIVERSAL PASSPORTを利用して学生に課題を提示し、それについてウェブ上でレポートを提出する形式で行おうと考えま

した。GW明けに通常授業が開始した際に、それまで提示した課題の解説を行い、7月末に補講をすることを考えていました。

しかしながら3月下旬になると新型コロナウイルスをめぐり情勢は一気に悪化しました。東京五輪延期の発表に続いて、3月下旬に東京都知事による感染爆発宣言があり、4月初旬にはついに緊急事態宣言が発せられることになりました。

以上のような状況の中で、総合政策学部ではまず何よりも学生たちの健康と命の安全を守ることに最優先の課題であるとの判断から、3月30日に急遽、新年度のガイダンスを対面で行うことを中止して、すべてホームページ上に動画をアップする方法に変更いたしました。その上で、大学全体で協議をして、GW明けから対面授業を行うことは不可能であるとの結論に達しました。

そこで急遽、大学がZoomの契約を行い、回線の増強などの措置を講じた上で、何度となく遠隔授業のための会議や講習会を開催し、GW明けより少人数クラスから少しずつ遠隔授業に移行し、

5月22日からは全面的に遠隔授業を行う体制を整えました。幸いなことにその頃になると感染者・重症者ともに少しずつ減少し、落ち着きを取り戻してきました。しかしながら油断をすると感染者が増加し、緊急事態宣言の解除とともに、総合政策学部の周辺でも感染者が出るような状態になりました。ここに至り、総合政策学部では春学期中のすべての科目を遠隔で行うことを決定しました。

秋学期の授業についても慎重に検討をいたしました。新型コロナウイルス感染症については収束してはいないものの、夏には比較的落ち着いてきている状況でもありました。もちろんけつして油断はできず、学生たちの間でクラスターを発生させてはならないということが最重要課題でした。ただ大学に入学したものの、満足にキャンパス生活を楽しめていない1年生、そして4月には卒業して社会に羽ばたいていく4年生には、少なくとも何らかの授業を井の頭キャンパスで、対面授業で受ける機会を設けたいと考えました。

もとより私達は大学の授業は



第一義的に対面式で行うものと考えております。学生と教員が互いに顔を見ながら、息遣いを感じながら授業を行ってこそ、教育であると考えております。実際、私自身も、10月下旬に1年生のプレゼミナールの中のコース別演習（1年生が2年次よりのコース選択のために、各コースの授業を体験する）で対面授業をした際には、本当に楽しかったですし、大きな充実感を感じました。普段、研究室でパソコンの画面を見ながら遠隔授業を行っている状況は虚しささえ感じています。

しかしながら井の頭キャンパスは5年前までのキャンパスである八王子キャンパスではなく、街外型のキャンパスではなく、街中にあるキャンパスです。そのため教室のキャパシティも約4000人の学生が授業を受けられるように設計されており、八王子キャンパスのように大教室がふんだんにあるという状況ではありません。感染対策のためにはいわゆる「三密」を避けようとする、現実的には履修者が40人程度の授業を対面で行うことしかできません。

ところが総合政策学部では1年生は多くの科目が必修科目、あるいは他学部との合同科目となっており、それらの科目は履修者数が1000人を超えています。また4年生については、ここまで順調に単位を修得してきた学生は、最後のセメスターはゼミナールおよび卒業論文作成が残っているだけで、多くの学生はすでにほとんどの単位を修得し終えています。

そこで総合政策学部では2020年度秋学期の授業については、1年生のプレゼミナールおよび必修科目である英語Ⅲ、英語Ⅳのみを対面授業で行うことにしました。また1年生にアンケートをとり、大学に通学することに抵抗のある学生については、プレゼミナールおよび英語Ⅲ、英語Ⅳの授業を遠隔授業で受けることができるように措置を講じております。さらに2年生以上の学生につきましては、ゼミナールのみ、担当教員と学生たちの間で協議した上で、学生の希望を考慮して一部を対面授業で行うことにしました。

その間、学生達やご父母の皆様

から多くのご意見をいただきました。「大学に入っているのだから対面授業を早く開始し、学生たちがキャンパスを利用できるようにするべきだ」とのご意見もあれば、「一部を対面授業で行うことを発表した際には、「せつかくこまで新型コロナウイルスに感染しないように万全の対策をとってきているのに、対面授業を再開することで通学時に感染した場合、大学はどのような責任を取るのか、取れるのか？」との非常に厳しいご意見もありました。

人類にとって未知のウイルスとともに生きていくということ、誰もが正解がわからない状態で苦悩しております。感染対策を充分にとりながら、少しでも学生に対して効果的な、そして心のもった教育を提供することができるよう工夫させていただいた上での措置であり、どうかご理解を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

願わくは一刻も早くこの新型コロナウイルスの騒動が収束に向かい、2021年度春学期には通常通り、全面的に対面授業を再開できることを祈っております。



コロナ禍の下での キャンパスライフ

学生部長 教授 渡辺 剛 Takeshi Watanabe

本年度より学生部長を務める、教授の渡辺剛です。保護者の皆様におかれましては、この先行きの見えないコロナ禍の中でお子様を大学に託すにあたり、様々な不安をお持ちであろうと思います。また、今年度の開始時には、流動的な状況や混乱もあり、学生支援について、必ずしも迅速とはいえない対応も見られました。この場を借りて、お詫び申し上げます。

メディアの一部では、コロナ禍の下で退学者が激増しているかのような報道も散見されます。これを受けて、お子様のメンタルコンディションや修学意欲の減退を心配される方も少なくないのではないのでしょうか。しかし、文部科学省の統計数値からは、むしろ昨年度で退学者は減少しているのが現実です。困難な状況であるのは間違いありませんが、学生達は予想以上の適応力やレジリエンスを発揮しております。この点、過度に心配されませぬようお願い申し上げます。

さて、本稿では、以下にキャンパスライフの幾つかの側面にお

ける大まかな状況をご紹介します。多少でも皆様の不安軽減に繋がれば幸いです。
(注 本稿は緊急事態宣言前に作成されたものです。)

【学生団体】

部活動やサークル活動といった学生団体については、夏前より活動を再開しております。体育系を中心とする屋外での活動は、三密を避けつつ、通常の活動を行っております。屋内で実施する活動については、例えば体育館、音楽教室、一般教室について、やはり三密を避けつつ活動を再開しております。但し、感染予防の観点から、イベントの参加・開催は禁止しています。また、団体内の飲食会合も禁止されています。

各団体共通の悩みとして、新入部員の加入が思わしくない状況があります。来年度は、オンライン形式も含めて何らかの形で新入生勧誘・歓迎イベントを実施すべく、企画を始めております。(2021年1月8日追記 屋内での活動は、原則自粛となりました。)

【杏園祭(学園祭)】

キャンパスライフの象徴的な存在でもある杏園祭(学園祭)は、不幸なことに二年連続で中止となつてしまいました。昨年度は台風の襲来、今年度はこのコロナ禍によるものです。今年度については、代替のオンラインイベントも検討されたのですが、学生による実行委員会の態勢建て直しを優先させるため見合わせております。まずは、この状況下でほとんど顔を合わせたこともないメンバー同士の親睦と意思疎通を図るべく、悪戦苦闘しているところです。

来年度秋の開催実現を願いつつ、万が一の場合にはバーチャル学園祭や代替イベントも開催できるよう、実行委員会と教員・職員が共に知恵を出し合っているところです。

【留学】

残念ながら、来年度春出発の大学派遣の留学は全て中止となりました。当学部ではグローバルキャリアプログラム(GCP)もあり、留学を希望する学生が毎年



写真1

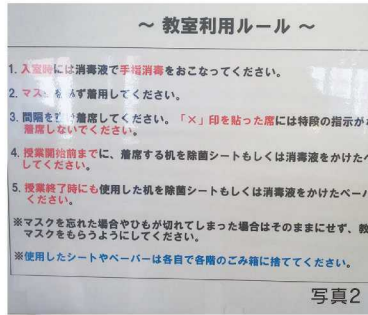


写真2



写真3

一定数おります。彼らの夢を少しでも取り戻すため、海外大学の提供するオンラインプログラムへの参加も視野に入れて検討を進めます。

【ピアサポート】

ゼミナール連絡会と有志が中心となって、一年生支援のピアサポートも動いております。これは、教員や職員ではなく、年の近い上級生が下級生、特に一年生を支援する活動です。キャンパスライフの諸々に関する相談、なかなか言い出せない不安事を大学の窓口に繋げる役割などが想定されています。上級生自身も、こうした活動を企画・運営することで、学生間の新たな連帯が生まれ、勉学以外の大学生活における「張り合い」も感じているようです。

【学内感染対策】

全教室には、十分な量のアルコール消毒液や除菌ウエットティッシュを常備しています(写真1)。着席も、必ず一席以上開けるよう指示し(写真2)、窓とドア

を常時開けた換気も励行しております。図書館でも、勉学環境の維持を図りながら、密とならぬよう着席できる場所の制限を行っています。学生食堂については、全ての席に衝立を設置し、隣席や向いの席からの飛沫を防止するようにしています(写真3)。

また、本学保健管理センターによる詳細な感染時対応マニュアルを用意し、学生、教員、職員の何れかが感染した場合や、濃厚接触が生じた場合にも、混乱が生じぬよう対策しています。厚生労働省が提供するコロナ接触確認アプリ「ココロココロ」のインストールも推奨し、一層の感染予防に取り組んでいます。

【ご家庭へのお願い】

他方で、ご家庭で留意頂きたいこともございます。お子様の夜遊びについてです。感染対策の一環として、学生に対して会食や繁華街での遊興を自粛するよう呼び掛け、指導しております。しかし、下校後の行動については、大学の管理は及びません。ご家庭でもご指導をお願い申し上げます。

また、お子様の生活習慣についても、ご留意ください。個々の通信回線の状態や対面授業への登校時間の兼ね合いなどを考慮して、オンライン授業はリアルタイム送信のみならず、録画したものを任意の時間に視聴することが可能になっていきます。学生によっては、いつでも視聴可能な安心感から、時間割に拘束されず、昼夜逆転に陥るなど生活の乱れが見られます。大学生活で一時期昼夜逆転に陥るくらいならば、ご愛嬌なのですが、この状況下では年単位での常態化が懸念されます。就職活動にも支障を来しかねません。この点も軽視できない問題です。

本学部の教員と職員一同、より良いキャンパスライフを支援すべく、奮闘しているところです。大学、保護者、学生が一丸となって協力することで、この状況を乗り切ってまいります。引き続きご支援を賜れば幸いです。



総合政策学部 講師

ウオン チュンメイ

Chunmei Huang

台湾の小さな客家(ハッカ)の町に生まれた私の世界は非常に狭いものでした。幼いころの私は、この狭い世界から飛び出したいという想いをいつも胸に秘めていました。台北にある国立政治大学を卒業後、北京外国語大学大学院に進学し、ロシア語とロシアの文化について学びました。大学院を卒業後、英語雑誌のセールス・マーケティング関連の仕事に携わり、その後、中国の国際的なNGOに就職しました。このように、私は幸運にも、常に開放的で国際的な環境に身を置くことができ、色々な国から来ていた人々と友人関係を築くことができ、様々な文化に触れて生活をしていました。幼い頃の「広い世界に飛び出したい」という夢は、中国で10年ほど過ごした時点で既に叶えられていました。新たな世界に出ていきたくなった私は、日本に渡りました。そこで、今までの仕事とは180度違う、教師という仕事にめぐりあうことができました。

日本に渡ってすぐに私はセールス・マーケティング関連の仕事、そして教育関係の仕事を経験しました。どちらの仕事も大変でしたが、人に教えるという仕事に大きな喜びを感じるようになりました。教育に深い興味を抱いた私は、大学院に進学し、応用言語学の分野を専攻しました。杏林大学では、ビジネス英語、プレゼンテーション、アカデミックリーディング、ライティング、リスニングなどの授業をこれまで担当しました。また、イングリッシュ・サロンでも働き、そこでは学生の皆さんとより自然な形で英語でコミュニケーションをとる喜びをいつも感じていました。

思い返してみると、英語でコミュニケーションをとるようになってから、仕事面でも私生活の面でも、自分の世界が広がったと感じています。学生の皆さんにも、私のように、英語を自分の世界を広げ、夢を叶える強力な手段として考えてもらえたら嬉しいです。現在、テンプル大学(東京校)博士課程で、言語教育と他の分野をいかに効果的に結びつけることができるのか研究するために、勉強中です。皆さんと一緒に、私も学び続けていきたいと思っています。

Growing up in a small Hakka town in the center of Taiwan, my world was very small. I had always wanted to leave my hometown and explore the world. With this goal in mind, I entered the National Chengchi University in Taipei, then went to Beijing to study my first master's degree in Russian language and culture. After I graduated from Beijing Foreign Studies University, I first worked for an English magazine then an international NGO in China. I was lucky enough to work in an international environment, make friends with people from all over the world, and have exposure to different cultures. In many ways, the 10 years I spent in China fulfilled my childhood dreams. So, when I had the opportunity to come to Japan, I felt it was time to start a new adventure. It had never occurred to me that I would have a teaching career in Japan.

In Tokyo, I have worked in sales/marketing and education. Both jobs are challenging in different ways, but I have found teaching most enjoyable and satisfying. An interest in becoming a better teacher motivated me to enroll in a second master's program in applied linguistics. While at Kyorin University, I have taught business English, presentation skills, academic reading, writing, and listening. I also worked at the English salon, where I could interact more naturally and develop closer relationships with students than in the classroom.

Looking back, I realize being able to communicate in English has opened up many doors for both my career and my personal life. I hope my students see English as a powerful tool that can help them achieve their own goals in life. For this reason, I am currently researching how to integrate language learning with other academic disciplines in my PhD studies at Temple University.

はじめまして井の頭図書館です。

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、休館や開館時間を短くする対応を取っており、学生や教職員の皆様には大変ご不便をおかけしております。そのような中で、図書館の紹介をさせていただける機会をいただき大変うれしく思っております。

井の頭キャンパスの中央に建つC棟の2階から4階が図書館です。延べ床面積は4424.73㎡、蔵書数は約19万冊、総座席数は586席（うち学習席は528席）とゆったりした学習空間になっています。通常であれば平日は8時30分から22時30分まで、土日祝日は9時から17時まで開館し総合政策学部はじめ、外国語学部、保健学部の学生や大学院国際協力研究科、保健学研究科の大学院生、教職員が利用しています。

井の頭図書館の特徴としては入口階でもある2階がラーニングコモンズエリアとなっており、フロア全体が意見交換や、教えあいながら学習ができる場所になっています。図書館というよりは、静かな学生ホールのイメージが近いかもしれません。グループ学習室も5部屋完備しており、新型コロナウイルス感染症の流行以前にはゼミ発表の練習などによく利用されておりました。しかし残念ながら現在は感染リスクを考え利用を停止しています。学生からの利用希望は多いので安全面を考慮しながら、利用再開時期の検討を続けています。

3階、4階は学習席と書庫になっており、落ち着いた静かな空間の中で学習できる環境となっています。

さて、みなさんは図書館というと書架に並んだ図書や雑誌を利用するイメージが強いと思いますが、最近では電子ブックをはじめ電子媒体の資料も多くなっています。当館でも来館しなくてもいろいろな情報にアクセスできる仕組みを提供しています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で授業もオンラインを利用したものが多く、学生は自宅など大学以外で授業を受ける事が多くなっています。在学生・在職教職員であればリモートアクセス（※1）の利用手続きをすることで、学外（自宅等）からも図書館の電子資料を利用することができます。百科事典や辞書、各新聞や専門分野のデータベース（※2）、電子ジャーナルなどはレポート課題の参考資料、就職関連の情報集めのツールとしても大変役立ちます。図書館を自由に使えない状況ですが、これら電子媒体の資料を有効に活用していただければ幸いです。

今後はシラバスに掲載されているテキストや参考図書なども、電子ブックで提供できるよう一層の充実を図っていく予定です。

（※1）図書館ホームページ【<https://library.kyorin-u.ac.jp/MyLibrary>】から申請してください。

（※2）図書館ホームページのデータベース案内【https://library.kyorin-u.ac.jp/?page_id=16943】に簡単な内容が記載されていますので、参考にしてください。

就活への備え

就職委員長 教授 小田 信之



就活のための準備は、何をやっておけばいいですか？ゼミに入ったばかりの二年生からよく尋ねられます。最近では、入学したての一年生から聞かれることもあります。同じ年齢の頃に何も考えていなかった自分を思い出すと、昨今の学生は意識が高いなと感心します。「就活への備え」という問いへの答えは一通りでないと思いますが、以下では、私が学生に伝えたいと日頃考えていることを中心に申し述べます。

就職・採用はマッチング

就活への備えを考える早道は、そもそも就活とはどういう場かをあらためて考えてみることです。企業の視点に立てば、一緒に働きたいと思える好青年を採用したいとか、将来経

営を背負っていける器の大きい若者を探し出したいということでしょう。私自身も、弊校に奉職する前に長年勤務した公共機関において、毎春のように採用面接官を務めてきましたが、その職場に相応しい学生を見抜くのは難しい仕事でした。一時間足らずの面接だけでは、相手の人間性について十分な情報を得るのは至難の業だからです。

相手のことを見極めるのが難しいのは、就活生の側も同じです。企業説明会などでは、いかに魅力的な職場であるかを力説する企業が多いようですが、どの企業にも良い部分と悪い部分があります。限られた就活期間に、関心ある企業について十分な情報を得るのは容易ではありません。

このように、お互いに相手の真の姿を探りながら、ピタリとマッチする相手を見つけ出

そうとする過程が就活であり採用活動だと言えます。

就活における三つの鍵

では、就活生の視点に立った場合、このマッチングを成功させる鍵は何でしょうか。就活のゴールが「自分の希望に合致する企業から内定を得ること」なのは明らかでも、実は就活生にとって、「自分の適性に合致するのはどのようなタイプの業種・職種・企業か」を見極めるのは簡単ではありません。

その理由は2つあります。第一は、前述のとおり、特定の企業の詳細までを正確に把握する（＝相手を知る）のが難しいことですが、さらに第二点目として、就活生が自分自身の適性を的確に認識する（＝自分を知る）ことが不

十分な場合もあるからです。「自分はこんな人間です」という話は誰でもすぐ出来るでしょうが、それは普段から抽象的に思い込んでいる「自分」であって、意識的に自分自身の得手・不得手や好みなどを整理してみて気付く「自分」とは、ギャップがあり得ます。自分自身の棚卸しという言い方がありますが、学生がそれまでの人生を仔細に振り返って、自分の適性判断に関連しそうな経験をたくさん思い出して自己分析を加えていけば、必ず自分自身への気付きにつながります。

このように、「相手(企業)を知ること」と「自分を知ること」が、就活の準備ステージにおいて重要な鍵です。そのうえで、就活の現場では、面接等を通じて自分をしっかりとアピールすること(「自分を知ってもらうこと」)が大切になります。これら三つの要素は、大学での就活支援カリキュラムの言葉で言えば、企業(業界)研究、自己分析(エントリーシート対策)、面接対策、という部分に対応します。

杏林大学総合政策学部では、充実したキャリア教育(三年間続くキャリア関連必修科目)と専門スタッフ(キャリアサポートセンター)による親身な指導など、至れり尽くせりの機会を提供していると自負しています。あとは、学生自身がその機会をどれだけ効果的に活用できるかが分岐点になると学生に話しています。

自分を育てる

ここまでは、「今の自分」を与件として論じてきました。しかし、若い大学生たちは、良い意味で、未完成な人間です。日々、進化していくことが可能ですし、時には大きく飛躍します。したがって、学生たちに何よりも期待したいのは、学生時代に多様な経験を積んで自分の「幅」を広げることです。何かに一生懸命に取り組めば、見かけ上の結果が成功であれ失敗であれ、若者にとっては価値のある経験となり、その先の成長につながります。学内での学習でも学外での勉強でも、部活動・サークルやアルバイトでも、あるいは趣味やボランティアでも、多くのことに興味をもって挑戦して欲しい。あるいは、肩肘張らなくてもいいので、試しにかじってみて欲しい。好奇心があれば、自然に行動に結びつくと思います。そのような行動力こそが、自分を育てます。これは、就活のために目指すような狭い目標ではありませんが、結果的に、就活での成果にもつながることでしょう。

私たち教員は、授業や演習などを通じて学生たちの好奇心を高め、社会を見つめる視野を広く深くしてもらおうと意識しています。大きなポテンシャルをもった学生たちに刺激を与えて、行動を促したいと思っています。

コロナ禍の下での就活

最後に、コロナ禍の就活への影響について若干申し述べます。

メディア等でも報道されていますが、ウイルス感染対策の一環で、企業説明会や面接試験など各種の就活イベントの多くが本年度はオンライン型で実施されることとなりました。面接については、最終面接など一部を対面式で行うなど、オンラインと対面の併用方式も数多く見られました。また、例年であれば就活のピーク期間である4月から5月にかけて、政府から緊急事態宣言が発出されていたこともあり、企業側の採用活動が一時的にストップした事例などがあって、就活スケジュールが後ずれしたケースも少なくありませんでした。

就活生にとっては、オンライン上で自分をアピールすることに慣れるまで時間がかかるなど、例年になく苦労が続きました。大学からの就活支援については、希望学生にはオンラインでアドバイスや面接トレーニングを実施するなど、工夫を重ねて参りました。今年度はもとより、来年度以降の就活についても、コロナ禍の影響がどのように及んでくるのか予断を許しません。逆境ではありますが、教員とキャリアサポートセンターが一丸となって、学生の就活を支えていく所存ですので、ご理解とご協力を賜れば幸いです。

キャリアサポートセンターの紹介

2020年度 キャリアサポートセンター年間スケジュール

※コロナウイルス感染症の影響を受け、WEB開催への切り替えや実施時期を変更して実施しました。

| | 行 事 | 対象学年 | 日程 | コロナ対応 |
|-----------------------|--------------------------|--------|------------|---------------------------|
| 前 期 | 4月 学部オリエンテーション キャリアガイダンス | 1~4年 | 上旬 | Universal Passportにてメール配信 |
| | 学内資格講座ガイダンス | 1~4年 | 上旬 | 旅行系国家資格・公務員講座のみWEB開催 |
| | 5月 1年生向け就職ガイダンス | 1年 | 上旬 | 10月実施に変更 |
| | 就活スタートアップ講座(自己分析+仕事理解) | 1~3年 | 中旬 | 10月実施に変更 |
| | 就職用証明写真撮影会:有料 | 3・4年 | 中旬 | 中止 |
| | 6月 LO活セミナー(U・Iターン就職) | 1~3年 | 上旬 | 中止 |
| | 外国人留学生就職ガイダンス | 4年 | 中旬 | 9月実施に変更。個別に連絡し対応 |
| | インターンシップエントリー実践講座 | 3年 | 下旬 | WEB生配信にて実施 |
| | 7月 筆記試験対策講座① | 1~3年 | 上旬 | 動画配信にて実施 |
| | 業界研究セミナー | 1~3年 | 中旬 | 動画配信にて実施 |
| 後 期 | メイクアップ講座 | 1~4年 | 上旬 | 10月実施に変更 |
| | 公務員ガイダンス | 1~3年 | 中旬 | WEB生配信にて実施 |
| | 9月 学内資格講座ガイダンス | 1~4年 | 初旬 | パンフレットをメール配信。一部講座は説明動画を配信 |
| | 多摩地区19大学合同企業説明会 | 4年 | 下旬 | WEB生配信にて実施 |
| | 外国人留学生就職ガイダンス | 4年 | 下旬 | WEB生配信にて実施 |
| | 10月 1年生向け就職ガイダンス | 1年 | 上旬 | WEB生配信にて実施 |
| | メイクアップ講座 | 1~4年 | 上旬 | 動画配信にて実施 |
| | 筆記試験対策講座② | 1~3年 | 下旬 | WEB生配信+アーカイブにて実施 |
| | グローバル企業セミナー | 1~3年 | 下旬 | 企業3社を招き対面・WEB併用にて実施 |
| | 就活スタートアップ講座(自己分析+仕事理解) | 1~3年 | 下旬 | WEB生配信にて実施 |
| 11月 2年生向け就職ガイダンス | 2年 | 下旬 | WEB生配信にて実施 | |
| 12月 LO活セミナー(U・Iターン就職) | 1~3年 | 上旬 | WEB生配信にて実施 | |
| 就職用証明写真撮影会:有料 | 1~3年 | 下旬 | 対面にて実施 | |
| 1月 就活実践講座 | 3年 | 上旬 | WEBにて実施 | |
| 2月 企業研究セミナー(個別・合同) | 3年 | 12月~2月 | WEBにて実施 | |

授業関連イベント

| | 行 事 | 対象学年 | 日程 | コロナ対応 |
|--------|--------------------------|------|-----------|-----------------------|
| 前 期 | 4月 就職ガイダンス | 3年 | 下旬 | 動画配信にて実施 |
| | 6月 就活トライアル | 3年 | 下旬(土) | 自己PR動画・エントリーシート提出にて実施 |
| | 8月 インターンシップ研修(事前・事後指導含む) | 1~3年 | 8月上旬~9月中旬 | |
| | 9月 就職ガイダンス | 3年 | 初回授業 | 動画配信にて実施 |
| | 11月 就活トライアル | 3年 | 中旬(土) | オンラインにて実施 |
| | 1月 就職ガイダンス | 3年 | 最終授業(水) | WEB生配信にて実施 |

就職ハンドブック活用法

キャリアサポートセンターでは学生の就職活動を支援するため、就活ハンドブックを配布しています。ハンドブックには就職活動における必要な情報を掲載しており活用することで円滑に就職活動を進めることができます。

Q.どのような情報が掲載されていますか？

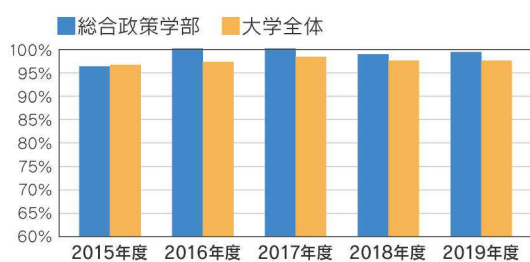
A.自己分析や業界研究の方法、企業へのEメールの送信方法や電話のかけ方、面接時の注意点、大学指定の履歴書の書き方等が掲載されており、手元に置くことで必要な情報をいつでも確認することができます。



1・2年生向け就職ガイダンス

1・2年生の低学年を対象としたガイダンスを2019年度から実施しています。今年度はさらに学年ごとに対象者を分けオンラインにて開催し、就職スケジュールの最新情報や就職活動に向けた準備について学年別に解説するとともに今後の学生生活の過ごし方について説明をしました。低学年時から自身の将来について考える機会を提供し、将来像を具体化することでそのキャリアに向けた準備を促し、意欲的に学生生活に取り組むことを目的としています。

■就職率の推移 (2015年度卒～2019年度卒)



| 学部 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 総合政策学部 | 96.2% | 100.0% | 100.0% | 98.9% | 99.5% |
| 大学全体 | 96.4% | 97.3% | 98.4% | 97.7% | 97.7% |
| 厚労・文科省発表 | 97.3% | 97.6% | 98.0% | 97.6% | 98.0% |

就職率 = 就職者 / 就職希望者

■2019年度主な就職決定先 (2020年3月卒) 2020年5月1日現在【総合政策学部】

【教育・公務】杏林学園／警視庁／相模原市消防局／東京消防庁／墨田区役所／世田谷区役所
 【金融・保険】常陽銀行／湘南信用金庫／城南信用金庫／多摩信用金庫／長野信用金庫／水戸証券／日本放送協会共済会【商社】大塚商会／高千穂交易／ネスレネスプレッツ／横河ソリューションサービス【小売】青山商事／トゥモローランド／ニトリ／東日本三菱自動車販売【製造】三協立山／セガサミーホールディングス／タカラベルモント／東芝テック／日産オートモーティブテクノロジー【建設・不動産】高松建設／竹中道路／日本ハウスホールディングス／明和地所／みずほ不動産販売／三井不動産リアルティ【情報通信】白川プロ／ミロク情報サービス／NTTコミュニケーションズ／日野コンピュータシステム【サービス】エイチ・アイ・エス／小田急リゾート／日本旅行／マイナビ／AOI Pro.／ANAスカイビルサービス／羽田空港サービス【運輸】国際自動車／スターフライヤー／田淵海運／日本郵便

就活トライアルについて

このイベントは2012年より開始され総合政策学部の3年生が全員体験します。仮想企業を設定してエントリーシートの提出から内定獲得までの選考過程を疑似体験でき、就職活動に対する準備を踏まえた重要な学部イベントとして毎年春学期と秋学期の2回実施しています。

就活トライアルはエントリーシートの提出に始まり、それを基にした本番さながらの集団面接や選考試験の一つであるグループディスカッション、就職活動に欠かすことのできない身だしなみやマナーの講座も体験します。

今年度はコロナウイルスの影響もあり、春学期は1分間の自己PR動画作成、秋学期はオンラインによる集団面接、グループディスカッションの実施にて対応をいたしました。

選考本番でも活用が進んでいるオンライン選考の対策として実施し、本番の前に良かった点や課題点を見つけることで、就職活動本番への意識向上につなげています。



オンライン面談・講座の実施

緊急事態宣言下でいち早くZoomを活用したオンライン面談(相談、添削、面接練習)に対応し、学内に立ち入れない状況においても面談を実施しました。電話やメールでの相談、添削等も積極的に受け付け、結果的に4・5月で例年と同件数の面談を受けました。6・7月にはWebによる学内企業説明会を実施し、各学年対象の支援講座も順次オンラインに変更の上、実施しました。



■インターンシップ先

羽村市／府中市／三鷹市／アドックインターナショナル／アムハード小西／紀伊國屋書店／共立メンテナンス／グローセル／KRL／サイサン／サンドラッグ／四季リゾーツ／白川プロ／西武信用金庫／タケダ／トップランク／ナイス／日本テイケアセンター／日本ハウズイング／ネットトヨタ多摩／堀江車輛電装／水戸証券

遠隔授業とEdtech

情報センター長

総合政策学部 准教授 糟谷 崇



杏林大学総合政策学部では、新型コロナウイルス

イルス感染拡大により、オンラインによる遠隔形式による授業を実施しています。春学期

よりWeb会議システム(Zoom)を用いて在宅でもこれまでと同じように授業が受けられることを目標に、様々な工夫を凝らしてき

ました。実は、当学部では、これまでも、2016年に「社会のしくみ―規制を学際的に考える―」、2017年に「社会のしくみ―社会保障を学際的に考える―」という2つの

講座をJMOOC (Japan Massive Open Online Courses) で提供するなど、新たな授業

サービスに対する取り組みをおこなってきました。

今回のコロナ禍によって、日本社会では、様々な分野でデジタル化の動きが加速しまし

た。教育分野でも、その流れを受けてEdtechへの期待が高まっています。EdtechとはEducationとTechnologyを組み合わせた言葉で、オンライン教育をはじめとする様々な新たな教育ツールやサービスを指します。その一例が上述したMOOC (大規模公開オンライン講座)です。

Edtechについては、文部科学省が「Society 5.0 (※1)に向けた人材育成」の実現にむけた活用方法について議論しているだけではなく、経済産業省も「未来の教室」とEdtech研究会を開催しているなど、未来を創るための新しい学習基盤の確立の手段として期待されています。

文部科学省と経済産業省の両者に共通しているテーマは「STEAM教育(※2)の導入」と「教育の個別最適化」です。STEAM教育の導入が求められている背景には、近年、ディープラーニング(深層学習)を始めとするAI(人工知能)技術の発展が関係しています。

重点を置いた教育です。AI人材育成は、一般的にAIによる解析方法(統計的学習や深層学習)に関するスキルの修得が重視されがちですが、AIやロボットが普及していくことで、むしろ人の仕事は今まで以上に、創造性や協調性が求められていくことでしょう。豊かな人間性を涵養するためにも、STEM教育が必要となるのです。

私は、総合政策学部 of 学生にも、AIが分析をおこなうために適したデータがどのようなものであるかを理解できる能力を身につけてもらうことができると考えています。なぜならば、データの後ろに隠された法則を見つけたり、物事の仕組みを理解したり、物事に新しい『意味』を見出したりすることができるように育てる教育は、まさに総合政策学部が重視してきた、学際性の観点(社会科学の分野を横断した学び)から社会課題をどう捉えるかという教育に通ずるものがあるからです。

次に教育の個別最適化についてです。教育の個別最適化の議論は、もともと教育業界でICT(情報通信技術)の活用が広がっていくなかで、注目され始めたアダプティブラーニングという学習方法から始まりました。

ICTを使って学習者の学習履歴を分析し、得意不得意を把握することで、それぞれの習熟度に合わせて学習機会を提供することができるので、これまでよりも学習効果が高くなることが期待されています。

個別最適化は、いままさに大学が直面している課題です。もともと大学の講義は1対多数に向けたものでした。近年、こうした知識の伝達手段としての講義を探究型・プロジェクト型の学習であるPBLに置き換える動きが大学でも進んでいます。そして、コロナ禍によるオンライン教育の導入、特にオンデマンド授業の提供によって、こうした動きが強まることが考えられます。

このようにオンライン教育が進展していくにつれて、別の問題も浮上してきます。オンデマンド授業が増えることで、学生が自分の好きな時間に講義動画を視聴することができるようになり、時間と距離の制約が取り払われることでしょう。そして、MOOCのような提供手段が普及していくことで、学生は好きな教育コンテンツをどこにいても手に入れることができるようになります。

そのとき教員の役割はどのようなものにな

るのでしょうか。今後は、単なる知識の伝達手段としての教育ではなく、個別の学生の学習に対するモチベーションを如何に上げることができるか、自ら学ぶことをサポートすることができるといった一人一人の学びをより有意義なものにしていくことにこそ力を入れるべきかもしれません。

ここに挙げた教育の仕組みは、まだまだ受講環境の問題や学校間の垣根など様々な問題が残っているため、直ぐに実現はしませんが、自らの志を達成し、将来の価値の最大化を達成したいという学びに対する本質的な欲求が存在する以上、新たな教育プラットフォームの普及は避けられないでしょう。杏林大学総合政策学部では、こうした未来の教育プラットフォームの実現に向けて努力を続けていきます。

(※1)サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)

(※2)STEAM-Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics

(※3)米国、英国、フランス、中国、インド、オーストラリア／ニュージーランド、シンガポール、アラブ首長国連邦／UAE、ブラジル、日本

総合政策学部では成績が優秀な学生や特別表彰学生(学部が認める資格の取得や課外活動などで顕著な功績を残した者)を例年表彰しています。2019年度は、以下の項目で各学部生が表彰されました。(掲載学年は当時)なお、4年生は2020年3月に卒業しているため、2019年度の表彰には氏名の記載をしておりません。

■ 成績優秀者表彰

2019年度表彰学生:41名(4年生10名、3年生10名、2年生11名、1年生10名)

- | | |
|------------------|------------------|
| ●総合政策学科 1年 小野沢空 | ●総合政策学科 3年 小田智美 |
| ●総合政策学科 1年 伊藤和之 | ●総合政策学科 3年 月岡杏菜 |
| ●総合政策学科 1年 塚田梨紗子 | ●総合政策学科 3年 三浦孝介 |
| ●総合政策学科 1年 米山涼加 | ●総合政策学科 3年 三浦ひなた |
| ●総合政策学科 1年 幸津絢未 | ●総合政策学科 3年 桑野勇氣 |
| ●企業経営学科 1年 高見澤萌香 | ●総合政策学科 3年 中山泰一 |
| | ●企業経営学科 3年 藤原詠菜 |
| ●総合政策学科 2年 宮崎瞬也 | |
| ●総合政策学科 2年 清水信太 | |
| ●総合政策学科 2年 長崎琉奈 | |
| ●総合政策学科 2年 金野優花 | |
| ●企業経営学科 2年 磯野杏菜 | |
| ●企業経営学科 2年 相良采佳 | |
| ●企業経営学科 2年 李美英 | |

■ 資格・検定等の合格者・高得点取得者(宅地建物取引士資格試験)

2019年度表彰学生:2名(4年生1名、3年生1名)

- 総合政策学科 3年 三浦孝介

■ 課外・社会活動等で功績を残した者(ゼミ連、入試広報スタッフなど)

2019年度表彰学生:13名(4年生11名、3年生1名、2年生1名)

- 総合政策学科 3年 矢萩雅弦
- 総合政策学科 2年 相澤虎大



馬田啓一賞は、総合政策学部の馬田啓一名誉教授のご寄付により設立され、学生の研究と勉学の奨励ならびに同学部の発展のために課題募集を行い、学部生と高校生の部に分けて表彰しています。令和2年の課題テーマおよび評価のポイントは以下のとおりです。

<総合政策学部生の部>

●課題テーマ: 下記課題図書の見聞録(3000字程度)

詫摩佳代

『人類と病 国際政治から見る感染症と健康格差』
(中公新書 2020年)



評価のポイント

1. 本の概要が正確にわかりやすくまとめられているか。
2. 本の著者の主張に対して、単なる印象や感想を超えた評価がなされているか。
3. 本の著者の主張と区別された応募者独自の主張がなされているか。
4. 書評としての論理構成に加え、誤字脱字の有無を含む形式面が満たされているか。

<高校生の部>

●課題テーマ: 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)によって、 今後の日本社会はどのように変化していくかを論じなさい。

評価のポイント

独自性や文章の説得力だけでなく、文章の形式(誤字脱字の有無、レポートの書き方)など

総合政策学部生の部の受賞者は以下のとおりです。受賞されたみなさま、おめでとうございます。
総合政策学部一同、ますますのご活躍を期待しております。

最優秀賞 (10万円) 阿野 智恵さん

優秀賞 (5万円) 多田 野佳恵さん 長崎 琉奈さん 服部 玲奈さん

杏林大学のコロナ対策の取り組み

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、杏林大学では、医学部付属病院を有する大学として学生の安全と健康を最優先に考え、さまざまな新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら授業を行ってきました。総合政策学部では「課題提示」、「収録動画配信」及び「リアルタイム配信」という3種類の形式をもって全カリキュラムの教育を実施し授業目標を達成しました。

7月下旬から8月下旬までの間に、杏林大学は全学学生を相手に「遠隔授業によるアンケート」を実施しました。総合政策学部の学生からのフィードバックの抜粋は次の通りです。「遠隔授業による学習の理解度」については「よく理解できた」及び「だいたい理解できた」と答えた学生はそれぞれ9.7%と55.7%でした。「遠隔授業でよかったこと」については「自宅から受講できる」が69.2%でした。「在宅学修・遠隔授業で出された全て課題の提出状況」については「80%以上を提出した」と答えた学生が70.3%でした。「遠隔授業の満足度」については「満足」「やや満足」「普通」はそれぞれ13.0%、21.0%、37.3%でした。一方、「やや不満」、「不満」はそれぞれ17.9%と10.9%でした。

また、秋学期の遠隔授業、対面授業に備え杏林大学はネットワーク環境の整備、貸し出し用のパソコンの充実、教室内空調環境の整備及び食堂の感染防止対策に早急に取り組みました。更に教職員たちは新型コロナ予防関係のセミナーに参加し万全を期して秋学期授業に臨みました。例えば9月1日、杏林大学は井の頭キャンパスで「面接授業時における新型コロナウイルス感染症対策について」という大型研修会を開催し、総合政策学部をはじめ外国語学部、保健学部の教員及び職員300人が参加しました。この研修会の講師は本学の倉井大輔准教授が務めました。倉井准教授は杏林大学医学部総合医療学感染症科の教員であり、杏林大学医学部付属病院の感染対策室長でもあります。倉井准教授は新型コロナウイルス感染症の概要、典型的な症状、有効な感染対策などを概説したうえで、大学で対面授業を行う際の注意点としては、入室の学生数や換気の大切さ、体調不良者の管理、大きな声を出さない講義のスタイル、共有物品の消毒などのポイントを参加者に丁寧に説明しました。

秋学期以降、杏林大学が開講するすべての授業は、文部科学省の感染防止方針に準拠しつつ、杏林大学独自に定めた「活動制限指針」のレベル1（井の頭キャンパス、三鷹キャンパス）を維持し、面接授業と遠隔授業を織り交ぜたハイブリッド型で実施してきました。総合政策学部の場合、1年生の英語の授業とプレゼминаールは対面授業を中心に行う一方、一部の小人数の授業は対面と遠隔の交互で行ってきました。大人数の授業は基本的に遠隔授業によって実施されています。

総合政策学部は今後とも各方面と連携しながら学生の安全、健康を守るために万全の対応にあたっていきます。

総合政策学部 教授 劉 迪

(注:この原稿は2020年12月20日に作成しました)

5年目の グローバル・キャリア・プログラム(GCCP)

GCCP担当 総合政策学部 准教授 三浦 秀之

杏林大学総合政策学部でグローバル・キャリア・プログラム(GCCP)が始まってから5年目

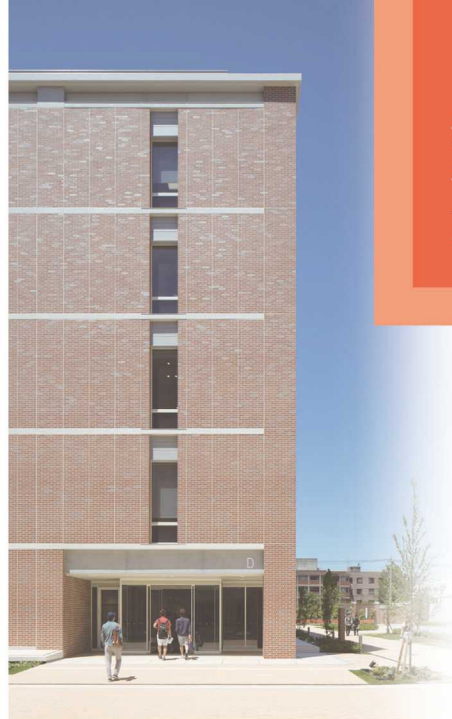
となります。昨年度は20名の1期生が、GCCP初の卒業生として社会へと巣立っていきました。1期生は、ほぼ全員が入学時に英語に苦手意識を抱えており、TOEICの点数が300点台前半がほとんどでした。そうした中で、入学時に320点だったTOEICの点数を810点までスコアアップさせる学生が出るなど、1期生の半分以上が、企業が国際業務に就かせる際に求めるTOEIC600点という点数を卒業時に達し、1期生の75%が、海外展開をしている企業に就職しました。本年度は、48名の5期生(新入GCCP生)があらたに加わり、1期生20名から始まったGCCPは、現在で

は4学年150名を超える大所帯となっています。

コロナ禍において、日本社会が大きな困難に直面するなかで、GCCP生も同様に多くの難問に突き当たっています。春学期は、すべての講義がオンラインで行われ、多くの学生が困難を極めたことと思います。対面の講義との違いもあり負担に感じた学生も多かったと思います。特に新入GCCP生の5期生は、大学入学後に学内の講義がないことにより、友人関係を構築できなかったことは、大きな悩みであったのではないかと思います。これまでの多くのGCCP生は英語漬けの日々を、友人たちと共に突破してきました。そうしたなかで、秋学期から、英語の講義とプレゼミ

ナールにおいて三密に考慮しながら対面の講義を始められるようになったことは幸いでした。これまで耐えてきたこと故なのでしょうが、GCCP5期生の関係性は、1~4期生と比べても強固に感じられます。

コロナ禍における最大の課題は、やはり留学です。GCCPでは、2年生の後期から海外への留学を強く推奨していますが、世界的なコロナの感染拡大により、今年度、杏林大学では、学生の海外への派遣を全学的に中止することを決定しました。これを受け、GCCPでは急遽、提携校の米国ポートランド州立大学と協議し、留学に代わる『オンライン留学プログラム』を用意しました。GCCP生は留学に行けなくなりましたが、来年度以降にコロナの感染拡大が収束する



ことを期待し、多くの学生が来年度の秋から留学することを視野に情報収集するとともに、日本でも出来ることを最大限に取り組んでいます。

昨年度は、3期生40名のうち30名が、留学を経験しました。留学のメリットは語学の修得にとどまりません。現地では、「あーうん」の呼吸が通用しない、日本人とは全く異なる価値観や思考回路を持つ人々と共に過ごすことで、多くの失敗や挫折も味わったでしょう。しかしながら、そうした経験をやるからこそ、自分自身の思考の甘さ、あるいはリスク回避能力の甘さを再認識し、それを軌道修正する必要性に「気づき」ます。事実、留学した学生は、語学力のみならず、人間としても一回り成長

して戻ってくるケースが圧倒的多数のようにも思えます。GCPにおける留学をするという文化を、今後潰えないように、コロナ感染が収束した際には、あらためて強く奨励していければと思います。

GCPには留学以外にもいくつかの特徴があります。第一に、「入学時の英語力は問わない」という点です。近年、専門分野や一般教養を英語で学べるカリキュラムを提供する大学は日本でも増えていきます。しかしながら、その多くは入学時に相当高い英語力を要求するプログラムとなつていきます。一方、我々が日頃学生と接するなかで、「中学高校時代には必ずしも英語が得意ではなかった。でも、英語は話せるようになりたい。将来は絶対に国際的な仕事につきたい」というニーズが根強く存在することが明らかになりました。こうした学生の想いを応援すべく、GCPでは入学時の英語力ではなく、むしろ将来のビジョンや志の強さ、また日本語でのコミュニケーションなど重視する方法で学生の選抜を行っています。

第二に、初年次に少人数型の英語教育を徹底的に提供するという点です。入学時の英語力は問わない一方で、ビジネス・スキルや専門

分野を「英語」で学ぶ。この両者の溝を埋めるためには、入学直後から英語の基礎体力の向上に相当の時間を費やす必要があります。そこでGCPの学生は、一年生の春学期から文字通り「毎日」、英語の授業または英語を用いた授業を履修し、沢山の課題をこなすことが求められています。

第三に、英語の授業の補講として、QQイングリッシュ社が提供する「オンラインのマン・ツー・マン英会話レッスン」を取り入れたという点です。レッスンの場所は通常の教室ではなくPC。この補講に限っては、教壇に教員はおらず、オンラインを介して各学生に一人ずつ海外にいるネイティブの先生がつくという、これまでの大学での英語教育の常識をくつがえす方法論の導入に踏み切りました。マン・ツー・マンであれば、1セッション50分間、全員が必然的に先生と英語で話し続けるしかありません。

最後に、GCPは英語の修得それ自体をゴールにしていない、という点です。GCPのゴールは、あくまでも国際的な仕事に従事するうえで必要なビジネス・スキル、そして総合政策学部が得意とする経済・経営などの社会科学系の専門分野を「英語」で学ぶという点にあります。

日本語が話せるからといって、すべての日本人がビジネス・シーンで必要とされるプレゼンテーション能力、論理的思考能力、発想力、あるいは議論や討論の技術に長けているとは限りません。語学の修得に加えて、こうしたビジネススキルの修得のための科目が多く用意されているのも、GCPの特徴といえるでしょう。

GCPには、入学当時ほとんど英会話ができなかった学生が数多くいました。しかしながら、月曜日から金曜日まで毎日「英語漬け」の生活を繰り返した結果、自らも英語を話す機会をつくろうとする学生が沢山見受けられます。GCPの最大の魅力は、共通の目標を抱える同志がいるということだと思います。お互いが切磋琢磨と研鑽し、刺激し合う関係性が1年生のときから形成され、濃厚な友人関係を構築しています。GCPはまだ完成形ではありません。時代が求めるグローバル人材像が変化する以上、そもそも完成形などというものは存在しないのかもしれませんが。社会の方向性を見極めつつ、そしてGCPの学生達の学びの成果やモチベーションにも気を配りながら、学生達と一緒に試行錯誤を重ねてプログラムを発展させていきたいと思っています。



▲GCP4期生によるクリスマス忘年会



▲GCP5期生



▲GCP新入生歓迎会



▲GCP×三菱地所レジデンス×地域住民による日本に住む外国人防災マニュアルの検討プロジェクト



▲インバウンド向けの外国人旅行者へのピクトグラムをグループで検討し英語で発表



▲アメリカからの学生への日本紹介



▲GCP生向けの留学説明会



プレゼミ4組(伊藤・原田・糟谷)



プレゼミ1組(大山・高田・半田)



プレゼミ2組(岡村・小田・島村)



プレゼミ5組(川村・内藤・長谷部)



プレゼミ3組(西・劉・藤原)



プレゼミ7組(齊藤・田中・尾崎)



プレゼミ6組(進邦・知原・北田)



プレゼミ8組(渡辺・木暮・大西)



プレゼミ10組(三浦・ジョエル・松井)

プレゼミ9組(マルコム・加藤・チュンメイ)



大西ゼミ

大西ゼミでは、担当教員の専攻分野である憲法学をテーマに学修を行っています。今年度(2020年度)は、春学期にまず入門的な文献の輪読を行い、秋学期には憲法に関する判例を各自の関心に応じて取り上げ報告するという応用的な課題に取り組んでいます。2019年度から始まった新しいゼミなので、これからもゼミ生の協力を得ながらより良いゼミを目指して模索していきたいと思えます。



伊藤ゼミ

会社及び会社法に関する研究を行っています。会社をめぐる環境は、日々変化しており、法規制も大きく変動しています。会社法や金融商品取引法の改正といった法令の変化、各種の企業不祥事の発生、敵対的買収や企業再編といった実務界における動向等を、具体的事例を取り上げながら研究しています。各自が興味を持ったテーマを調べ報告し、みんなで検討しています。また、推薦図書を紹介しあい、多くの本を読むことを心掛けてもいます。



大山ゼミ

大山ゼミは、2018年秋学期に誕生しました。2年生のゼミ生は11名で、3年生のゼミ生は全部で10名です。4年生のゼミ生は8名です。ゼミ生同士大変仲が良く、互いに切磋琢磨して日々勉学に励んでいます。大山教授は、現在、総合政策学部で、刑法総論・刑法各論・刑事訴訟法・医事法を担当しておられますが、ゼミで討議する内容も、これらの学問領域にまつわるものが大部分です(現在はコロナ渦のため、ゼミナールの活動は全てズームによって行われています)。最近、3年生のゼミでは、臓器移植法や偽証罪のテーマにつきディスカッションしました。
<ゼミ長・企業経営学科3年・中山健太>



大川ゼミ

日本経済に関するテーマを自分で選択し、調査研究を重ねて行うプレゼンテーション。仲間や先生との討論を経て、より充実した内容にしていき、最終的には卒論に纏め上げていく。その過程では、リサーチや論文作成等の技術的な訓練に加え「生きた経済」を体感するための株式市場模擬投資などコロナ禍でもオンラインで厳しくも暖かい指導が行われています。就活にも熱心で、先生からはキャリアサポ通いを半ば義務付けられます。「卒業時には立派な社会人」が目標です!

※ゼミ活動の写真の一部は過年度のものを掲載しています。



小田ゼミ

小田ゼミでは、経済に関する幅広いテーマを題材として、考える力と伝える力を高めるトレーニングを行っています。先生の研究分野は金融ですが、それに限らず、ゼミ生の関心に応じて多彩な問題を取り上げて、発表や討論などを行います。個人課題やグループワークを通して経済のセンスを磨き、社会で活躍するための土台を築くのが目標です。また、ゼミ生の企画によって、校外見学会や合宿に出かけたり、親睦会を開催したりと、みんなで元気に活動しています。



岡村ゼミ

国内外における福祉関連のボランティア活動の企画・実行と、ゼミ生同士の議論を通じて福祉関連の様々な問題への対処のあり方について考えています。近年の共同研究テーマは「マインドフルネス」の活用方法です。「マインドフルネス」は福祉分野だけでなくビジネスや教育等様々な分野でもその有用性が報告されている「今ここへの集中と気づき(の技法)」です。地域社会におけるその周知・活用方法を日々模索しています。



糟谷ゼミ

糟谷ゼミでは、毎年、工場見学に行っています。昨年度はシステムキッチンメーカーのNASLUCK(ナスラック鎌倉工場)に行きました。ナスラック鎌倉工場では材料のリサイクル100%を達成するなど、効率化・環境への取り組みなど様々な工夫について丁寧に教えていただきました。日頃、私達は店頭で売られている商品などにしか目がいかないことが多いですが、このようなモノづくりの現場を見ることで、多くの企業の活動を想像してもらいたいです。



尾崎ゼミ

本ゼミでは、新たな情報技術やイノベーション、それらに関わる様々な企業・機関等の動向を探ることにより、高度情報化社会にどのように参画していくべきかを学びます。入ゼミ時に特別なPCスキルは不要ですが、ゼミではノートPCないしタブレットを必須としています。ゼミ生が今後の働き方のメインとなるであろうテレワークに慣れていけるよう、Zoom等のリモートワークアプリを取り入れたシステムづくりを目指しています。



北島ゼミ

国内外の健康課題について勉強するゼミです。今年度は、オンラインでの開講が中心であったため、それぞれ興味がある健康問題について調べ、報告し、議論をするという形で進めました。新型コロナウイルス感染症への対応や社会経済活動への影響に関するテーマが多かったですが、食品衛生、出産、臓器提供、SDGsなど様々なテーマに取り組んでいます。また、新型コロナやSARSに関する英文記事や報告書の講読も行いました。



加藤ゼミ

今年は2つの改革が進行中。1. 人数が増え、ゼミ生のゼミ活動に求めることの多様化が進んだため「アイデア発信コース」、「個人コース」、「受講コース」を設け、ゼミ生が自由にコースを選択できるようにしました。2. 遠隔会議に慣れておく必要があると考えZOOMによるゼミをゼミ生による司会で進めています。ゼミ生のプレゼン、ディスカッション能力は遠隔でも着々と向上しています。今年も素直で、素敵な学生に恵まれたゼミです。



北田ゼミ

北田ゼミでは、民法全体の理解度を上げるため、また、将来の職業を考えるきっかけとなるよう、春学期は宅建士の勉強に取り組んでいます。このほか、教員の専門分野である民法に加え、憲法、刑法、社会保障等の関連分野についても勉強します。学生1人が1コマを使って時事問題を報告し、議論を盛り上げるための「仕掛けのある発表」の準備を頑張っています。学園祭での屋台の出店、国内合宿ともに、学生だけで企画し、交流を深めています。



川村ゼミ

川村ゼミでは、国際法制度、国際協力の分野を軸に、様々な国際問題について勉強します。ゼミの進め方は、国際的な時事問題に関する個別報告、テーマ設定をしたグループワーク、1冊の本の輪読などです。今年のグループワークでは、コロナウイルス×国際問題×持続可能な開発目標(SDGs)を軸に取り組んでいます。秋学期は、『人類と病』の輪読も行っています。春学期はオンライン、秋からは対面とのハイブリッドですが、皆、積極的にゼミの勉強に取り組んでいます。



島村ゼミ

島村ゼミでは、「大学は学問を通じての人間形成の場である」というある哲学者の言葉をモットーとしています。そのため、毎週毎回のゼミ活動をとても大切にしています。毎週、学生たちは、教科書を読んで、グループ・ディスカッションを行います。2020年度は、コロナ禍のため、ZOOMでのブレイクアウト・セッションの機能を使いました。グループごとに報告し、一人一人の意見も発表し合います。



木暮ゼミ

木暮ゼミでは、選挙での出口調査、模擬投票イベント、学外でのプレゼン大会出場、学園祭での模擬店、八王子コンソーシアムの学生発表会への出場など、かなり多様な活動を行っています。また、企業訪問、羽村市での各種イベント（産業祭など）にも関わるなど、学内にとどまらず、学外に積極的に行っています。社会人との接点を持ちながら、学生に多くの経験をしてもらいたいと願っています。



進邦ゼミ

今年は、コロナウイルス感染症の拡大で、地域に飛び出してまちづくりの現場に触れること、夏合宿に台湾でフィールドワークを行うことなど、当然のことが当然に行えない1年になりました。今年の台湾合宿では、当地の大学生との交流を予定していたので、残念でなりません。今年リモートや一部対面でゼミを行いました。この活動で充電したことを、来年度以降活かしていきたいと考えています。



齊藤ゼミ

齊藤ゼミでは、資源や環境の問題について学んでいます。個人発表やグループワークのほか、工場見学などもおこない、さまざまな形で資源や環境の問題に触れています。全ての学年と一緒に勉強するため、同じ学年だけでなく、上下のつながりも強いのが、このゼミの特徴です。先輩たちの後輩の面倒見も良く、勉強だけでなく、さまざまな活動を通して、みんなで楽しく学んでいます。



内藤ゼミ

内藤ゼミナールは2020年度、4年生13名、3年生11名、そして2年生5名の合計29名で、会計学の領域を楽しく、そして厳しく研究しております。ゼミナールでは普段の活動に加え、夏合宿(福島)、杏園祭参加、OB会、冬合宿(新潟)などの行事があり、「多くの時間と空間を共有することが団結を生む!」をモットーに、勉学にも、行事にも全力投球で活動しております。残念ながらコロナウイルスの関係で2020年は行事ができませんでした。少しでも早い収束をお祈りしております。



高田ゼミ

簿記や企業分析などを学習しています。例年は資格取得をめざした簿記の勉強が中心でしたが、今年度はコロナ禍における企業の分析に時間をかけました。Zoomによるオンライン授業では、その場ですぐにデータを入手できるだけでなく、資料の共有やグループディスカッションが容易です。対面形式のゼミや課外学習は叶いませんでしたが、例年より活発な議論で、実社会と会計との結びつきを実感できたように思います。



長谷部ゼミ

長谷部ゼミは、産業社会学・経営学の観点から、企業と社会の関係について学んでいます。2年~4年の前期は、文献講読とレジュメ作成を通じて、3年次以降の主体的な学びの前提となる基礎研究力を身につけます(2年次は基礎的な文献、3・4年次は卒業研究に向けた専門的な産業社会学・経営学のテキストを輪読します)。また後期は、各学年が合同で、様々な共同研究プロジェクトに取り組みます。互いに切磋琢磨するゼミです。



田中ゼミ

企業経営についての著書の輪読を行い発表と討議を行います。本年は『ストーリーで学ぶマネジメント~組織・社会編』をテキストに使用しています。人前で意見を述べることや、パワポの発表などに慣れてきています。大学コンソーシアム八王子等の発表会にも挑戦。本年は市長の前での発表です!コミュニケーション能力を向上させ、ゼミ員の「就活力」を高めることも重要な目的です。



マルコムゼミ

My seminar for second year students is initially (third semester) focused on studying or working abroad, which is strongly encouraged for all GCP students. Students not studying abroad in the second semester of their second year (semester four) will need to present a topic each week in English. These topics should be focused on the speciality courses that are taught in English. The objective is to better prepare students to engage with the courses in the advanced studies. Third year students will investigate a topic and present the information. Students will be required to present evidence and discuss questions. We will also consider opportunities for Japanese organizations based on experiences abroad. Third year students may also be expected to mentor other students on study abroad matters. Students may need to plan workshops for Kyorin Festival. Fourth year students will be expected to complete a Graduation thesis in English.



原田ゼミ

2年生、3年生の演習は合同で春学期には時事問題、秋学期は財務会計理論を勉強しています。また4年生の演習では卒業論文の個別指導を行っています。今年度は恒例の宿宿は中止となり、春学期からzoomを利用したリモート授業が継続しています。しかし6月に中止となった日商簿記検定は再開され、さらにウェブ受検を利用するなど、受検機会が増えました。ゼミ生はそれぞれ目標級の合格、そして大学時代のキャリア形成を意識しながら勉強を続けています。



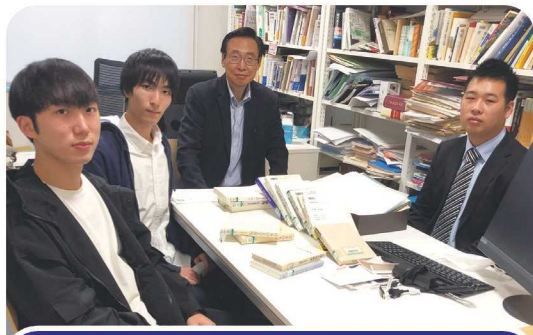
藤原ゼミ

本学では、法律学とキャリア教育を担当しています。ゼミでは、社会人として必要な思考力と表現力の養成を進めつつ、各種試験の対策指導と学問的な深化をそれぞれの希望にあわせて行っています。法律の勉強は各種資格試験・公務員試験等においても必要とされるので、公務員試験を目指す学生からの相談も受け付けています。藤原ゼミには、例年、意欲的な学生が所属しており、就職実績においても素晴らしい成果を残しています。



半田ゼミ

半田ゼミでは、近現代の日本政治について研究することを目的としています。2年生は、社会問題を題材としたプレゼン大会に出場する準備や、政治学に関する書籍の輪読、ニュース検定の資格取得をおこなっています。3年生は、時事問題に関するディベートやグループディスカッション、卒論作成に向けた研究をおこない、交代で発表をしています。4年生は、卒論の添削作業を中心におこなっていますが、各人の就活指導もしています。



劉ゼミ

比較政治学、国際政治関係の書籍を輪読しています。また時事問題を取り上げてその背景にあるものを学び、議論を深めています。2021年は新型コロナウイルス感染拡大後の中国政治、中国社会について複数のテーマを設定しグループに分かれて研究する予定です。大学院生と共同発表会も行います。



松井ゼミ

松井ゼミでは、ニューヨーク・タイムズやCNNなど、英語圏の新聞・雑誌やニュース映像を教材として、「英語」と「時事問題」をインテンシブに勉強しています。春学期には、コロナ禍が世界各国に与えている様々な影響（米中対立、企業活動、大学生活、高齢者施設、マスク着用、自殺率等）に関する英語ニュースに挑戦しました。コロナ対策のためリモートで実施してきましたが、今後は段階的に活動を拡大できればと考えています。



渡辺ゼミ

安全保障と東アジア情勢を中心に、国際情勢を広く扱っています。時事的なものから歴史を遡ったものまで様々です。国際情勢に関する知識の習得以外にも、広く社会で通用する知的能力の向上を図っています。特にプレゼンテーションとディスカッションを通じた、情報収集・評価能力、論理的思考力、説明力が重点となります。更に、年一回の海外合宿を実施し、実体験に基づく異文化理解も試んでいます。



三浦ゼミ

国際政治経済学を中心に学ぶゼミです。2年生のゼミは専門的内容に入る前に、課題発見力と解決力を養うため、プロジェクトベースの取り組みを行います。3年生では国際政治経済学に関する専門的な論文の輪読やアジア各国の政治・経済・文化を研究調査することを通して知識を深め、その後の卒業論文に繋げていきます。今年度はコロナ禍でゼミ合宿は開催できませんでしたが、例年2年生は国内、3年生は海外で合宿を実施しています。

杏林大学総合政策学部 プレゼン大会

— 2020年10月10日(土)13:00-17:10 —

10月10日(土)、ゼミナール連絡会(ゼミ連)主催のプレゼン大会が実施されました。このプレゼン大会は、毎年杏園祭の期間中に実施されていましたが、コロナ禍で、今年の杏園祭自体は中止となってしまいました。しかし、各ゼミの研究成果発表の場としてのプレゼン大会だけは実施しようとの意向で、オンラインでの実施となりました。

参加したチームは、斉藤ゼミ、尾崎ゼミ、長谷部ゼミ、川村ゼミ、渡辺ゼミ、岡村ゼミ、半田ゼミ、進邦ゼミの計8ゼミ、18チームです。各チームの発表は、砂漠化、海洋ごみ、化石燃料といった環境問題、AI、コロナ禍における教育問題、途上国支援および6か国の対応比較、権威主義v.民主主義(安全保障・コロナ対策)、覇権変動と日本、マインドフルネス(日本語・英語)、ブラックバイト、いじめ対応、デジタルデバイト、台湾事情に関して李登輝、八田與一および日本統治下の建物と、バラエティ豊かな内容でした。活発な質疑応答もなされ、非常に興味深く有意義な大会となりました。

■2020年度ゼミ連主催プレゼン大会 プログラム

| | ゼミ | 内容 |
|-------|-------|----------------------------------|
| 13:00 | | 開会宣言および趣旨説明(10分間) |
| 13:10 | 斉藤ゼミ | Aチーム:「砂漠化」 |
| 13:20 | 斉藤ゼミ | Bチーム:「海洋ゴミ問題」 |
| 13:30 | 斉藤ゼミ | Cチーム:「化石燃料から再生可能エネルギーへ」 |
| 13:40 | | 質疑応答 |
| 13:50 | 尾崎ゼミ | 尾崎ゼミ「AIと我々のあり方」 |
| 14:00 | 長谷部ゼミ | 長谷部ゼミ「コロナ禍と労働・教育」 |
| 14:10 | 川村ゼミ | 川村ゼミ「昨日より健康に～build back better～」 |
| 14:20 | | 質疑応答 |
| 14:30 | 渡辺ゼミ | 6カ国におけるコロナ対応の差と比較 |
| 14:40 | 渡辺ゼミ | 権威主義vs民主主義 生存するのはどちらか |
| 14:50 | 渡辺ゼミ | 覇権変動と日本の振る舞い方 |
| 15:00 | | 質疑応答 |
| 15:10 | 渡辺ゼミ | 権威主義vs民主主義～コロナ対策を見て～ |
| 15:20 | 岡村ゼミ | Aチーム「マインドフルネス」(日本語) |
| 15:30 | 岡村ゼミ | Bチーム「Mindfulness」(英語) |
| 15:40 | | 質疑応答 |
| 15:50 | 半田ゼミ | Aチーム:「ブラックバイトについて」 |
| 16:00 | 半田ゼミ | Bチーム:「いじめ対応マニュアル」 |
| 16:10 | 半田ゼミ | Cチーム:「デジタルデバイトの要因とオンライン活動」 |
| 16:20 | | 質疑応答 |
| 16:30 | 進邦ゼミ | 李登輝班「李登輝と台湾」 |
| 16:40 | 進邦ゼミ | 日本人班「台湾で最も知られる日本人ー八田與一」 |
| 16:50 | 進邦ゼミ | リノベ班「台湾における日本統治下の建物の活用」 |
| 17:00 | | 質疑応答 |
| 17:10 | | 閉会宣言 |

テーマ

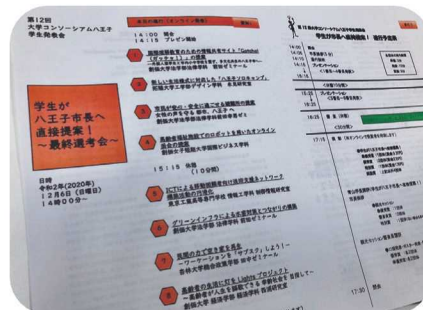
民間の力で空き家を再生
～ワーケーションを「サブスク」しよう!～

●田中ゼミナール3年 野呂瀬 世史輝

「第12回大学コンソーシアム八王子学生発表会」が12月6日に開催され、本年も田中ゼミナールとして参加した。参加団体は、八王子の大学から総勢167組にも及び、口頭発表、展示発表、ポスター発表により行われる大規模なイベントである。我々は、口頭発表の参加団体の中、「学生が八王子市長へ直接提案!～最終選考会～」の部門での発表に選ばれた。

我々のプランは、八王子の空き家問題に目を向け、市が行った調査から所有者が利用を許可する空き家の存在に注目したもので、それを生かすことができないかを問題意識とした。具体的には、クラウド・ファンディングを活用しながら、リノベーションを行い、テレワークやワーケーションの活用を図るというもので、民間の力を主体としたプランを市政に生かす試みを提案してみた。審査の方のコメントは、イノベーションの着眼点こそは評価されたものの、プランのリスクに対する詰めが甘さがあることも具体的に指摘して頂いた。そして、「奨励賞」というものを頂き、八王子市長に空き家問題の解決の重要性を示唆できたことにはやりがいを覚えた。

また、同じ部門に参加した他のチームからは論理的かつ的確なプランと高いプレゼンテーションスキルを学べたことは非常に良い経験であったといえる。この発表会では、後日、八王子市の担当部局からもフィードバックが得られるなど、行政当局の考え方を具体的に知ることができることもこの発表会の醍醐味である。発表会の準備においては、ゼミナールの先輩や後輩を巻き込み、アイデアを出し合いながらプランを深化させることができた。私はこの発表会参加を通して、ゼミの一体感を一段と高められたと感じている。



私とあなたの意識改革 ～食品ロスに私たちができること～

●半田ゼミナール3年 神宮 奈実

私たちが所属する半田ゼミナールでは、12月5日(土)と6日(日)の2日間に渡り開催された「第12回コンソーシアム八王子学生発表会」に2グループに分かれ出場しました。この発表会は、大学コンソーシアム八王子に加盟する大学・短期大学・高等専門学校が一堂に会し、日頃の研究成果を発表するとともに、他学生の研究成果を聴講し、学びを深められる機会となっています。

私たちのグループでは、日本だけではなく世界においても大きな社会問題となっている食品ロスに着目しました。“食”は私たちにとってとても身近な存在ですが、“食べる”ということに意識を持っていきがちで、“捨てる”ということに意識を持っている人は少ないのではないのでしょうか。

実際、現在日本では年間約637万トンもの食品ロスが発生しているにも関わらず、ここ近年改善が全く見られていません。

食品ロスが多いということは、焼却の際の二酸化炭素発生に繋がり地球温暖化の影響となります。またそれだけでなく、焼却炉の管理維持費の増加にも繋がります。つまり、無駄な支出となるのです。

そこで私たちは昨年、「ミールキットによる食品ロス削減」を解決策に挙げ、三鷹市社会福祉協議会の方々と農家を営んでいる富澤さんに協力していただき、実際に杏林大学の学生を対象に検証しました。ミールキットというのは、廃棄予定の食材をカット済みに変え、レシピとともに利用者のもとに届けるというものです。結果、約5.1キログラムの野菜が廃棄されずに済み、ミールキットの需要も知ることが出来ました。

そこで、今回は対象者を広げ、八王子市でさらに研究を進める予定でした。しかし、コロナ禍ということで八王子市での実際の検証は難しかったため、前回の三鷹市での検証結果を基に、ミールキットを使うことで八王子市ではどのぐらいの食品ロス減少が見込めるかを算出し、食品ロスの現状報告とともに発表をしました。

コロナ感染拡大の影響のためプレゼン準備は全てオンラインでしたが、コミュニケーションを十分に取り、プレゼン作りを進めてきました。

今大会を経て、ただ“話す”というだけがプレゼンではないと改めて気付くことができ、“伝える”ということの難しさをより一層感じました。プレゼンに限らず、“伝える”ということは私たちが普段から意識していかなければならないことだと思えます。如何にして、その言葉の裏に込められた想いを伝えるのか。オンラインでの発表であった今大会だからこそ学べた点が多くありました。

また、他学生の発表を聴講したことでたくさんの刺激を受けました。プレゼン力や研究の質はもちろんですが、それ以上に今後、現状に満足せず、向上心を持って何事にも取り組んでいきたいと強く思いました。



テーマ

待機児童を減らそう ～八王子市における取り組みと今後～

●半田ゼミナール3年 西崎 貴之

私たちのグループでは、現在深刻化している待機児童の問題に着目し、待機児童の数が減らない理由と、待機児童解消のための解決策について発表をしました。

現在の日本での待機児童は都市部に集中しており、東京都では特に問題視されています。そして、八王子市の待機児童数は26人であり、とても少ない印象がありますが、そもそも私たちの国は少子化傾向であるため、八王子市の人口に占める待機児童の割合は減少したとは言えない状況にあります。

これまで八王子市では少子化問題を改善するための取り組みが行われてきましたが、この問題の先には次の課題として待機児童の問題があるのではないかと考えるに至りました。

そこで、保育園等の施設と高齢者の介護施設が一体となった幼老複合施設を八王子市に提案したのです。これは土地や建物を有効活用できることや、老人と子どもが相互に見守ることで、コスト削減が実現できると考えました。

この提案では、高齢者と子どもが触れ合うことで特色あるケアを実現することが可能になり、異世代交流も期待できます。ただ待機児童を減らすだけでなく、子どもが高齢者との触れ合いの中で学び、成長してほしいという願いも込めた上で、このような施設を提案しました。

今回は、コロナウイルスの影響により、オンライン上でのやり取りを経て準備を行いました。オンラインでのやり取りは慣れていないこともあり、対面時よりもプレゼン作成が困難であったと思います。このような環境の中、無事に完成したときは普段以上の達成感を得ることができました。

また発表当日は、落ち着いて話せた半面、緊張から台詞が飛んでしまう場面もあり、多くの反省点がありました。しかし、今までの練習の成果を発揮して、満足のいくプレゼンが出来たと思います。発表の工夫として、聞き手を飽きさせないために、内容の分かりやすさや話し方、声の大きさには気を付けました。また、オンライン上での発表ということで、目線や表情が暗くならないように気を使いながら発表に挑みました。

私は、今回の発表会を通じて、チーム内での気遣いや協調性、自らの役割をこなす大切さを学ぶことができ、一つの課題に対して、チーム一丸になって作り上げることの達成感を感じる事が出来ました。このコンソーシアム八王子を終えて、ゼミ員同士の絆もより一層深まり、とてもいい経験が出来たと思います。ぜひ、後輩たちにもこのイベントのすばらしさを肌で感じてほしいと思いました。



「学際演習」は、社会科学を幅広く学ぶ総合政策学部の必修授業です。専門の異なる複数の教員が、学生とのディスカッションやフィールドワークなどを通じて様々な角度からテーマを掘り下げていきます。

| 学期 | テーマ | 担当教員 |
|-----|---|-----------------------------|
| 春 | 子育て支援 | 北田 真理/島村 直幸/松井孝太 |
| 春 | 地域づくり | 進邦 徹夫/三浦 秀之 |
| 春 | 株式投資の基礎知識と模擬投資 | 加藤 拓/小田 信之/高田 京子 |
| 春 | 職業教育と情報化 | 糟谷 崇/藤原 究/長谷部 弘道 |
| 春 | 近世近代の文書資料を読む | 原田 奈々子/松田 和晃 |
| 春 | Interdisciplinary Seminar 1・2 (future) | Malcolm Field/Chunmei huang |
| 春・秋 | Interdisciplinary Seminar 1・2 (EMI) | Michele Joel/EMI teachers |
| 春・秋 | エクセルスキルを高める(鍛える) | 加藤 拓/田中 信弘 |
| 秋 | 日本の論点 | 西 孝/田中 信弘/大西 健司 |
| 秋 | アジアの持続可能な展開 | 劉 迪/北島 勉/斉藤 崇 |
| 秋 | 江戸東京再発見 | 半田 英俊/高田 京子/小野田 欣也/尾崎 愛美 |
| 秋 | スポーツ | 岡村 裕/伊藤 敦司/川村 真理 |
| 秋 | Interdisciplinary Seminar 1・2 (海外大学授業の翻訳) | 糟谷 崇/長谷部 弘道/知原 信良 |
| 秋 | 企業の不正を考える | 内藤 高雄/大山 徹 |
| 秋 | 日本の近代化と江戸時代のレガシー | 渡辺 剛/大山 徹/原田 奈々子 |
| 秋 | AI | 木暮 健太郎/大川 昌利/尾崎 愛美 |

■学際演習「エクセルスキルを高める(鍛える)」紹介

一昨年にスタートした学際演習エクセルは、早いもので三年目を迎えました。学生のみならず社会人でさえもエクセルスキルに不安を感じている人が少なからずいること、「インターンに行っても必要性を痛感した」という主旨の学生さんの声を幾度となく耳にしたことから、受講する学生はかなりの数に見込んで開講しました。お陰様で毎回30名前後の学生さんがエクセルと"格闘"されています。

毎回ややボリュームの多いデータの入力から始まり、それをを用いて新たなエクセルの関数や分析方法を学んだ後に演習を行い、演習の結果を提出するという流れをひたすら繰り返しています。

膨大な量のデータを処理する際に味方にしておくと良いと思われるSUMIF、COUNTIF、VLOOKUPなどのやや難解な関数や、アンケート結果を集計するのに必要なピボットテーブル、2つのデータの関連の分析や、新商品の需要予測、新店の売上予測のための相関分析・重回帰分析、時系列データから季節性を除去する移動平均などの内容を、企業等で実務に携わる際に出会う可能性のある問題状況に関連させながら説明することを心がけています。

今年度は遠隔授業なのでどうなることかと思いましたが、画面上で実演を繰り返しながら説明することができますし、質疑応答も対面に比べて行いやすく、思いのほかスムーズに進んでいます。残念なのは、初回の授業でPCの前で固まっている学生さんが、回を追うごとに手を動かすようになり、やや難しい課題もこなせるようになっていく様子を見る事ができないことです。

今後も内容の充実を図ってまいりますので、まだ受講されていない学生さんは、ぜひエクセルとの"格闘"にいらしてください。受講済みの学生さんは、受講していただきありがとうございました。(たまに復習しておいてください。)

総合政策学部 講師 加藤 拓

新型コロナウイルス危機の今こそ、 本を読もう！

准教授 島村直幸

2020年は、新型コロナウイルス危機に見舞われた。欧米諸国では、首都のロックダウンが実施され、日本でも緊急事態宣言で外出自粛が要請された。問題は、長期政権となっていた安倍政権が、新型コロナウイルス危機にうまく対応できなかったことである。むしろ、いくつかの都道府県の地方自治体のイニシアティブが注目された。

安倍政権による緊急事態宣言の発動を、国民の過半数以上が「遅すぎる」と感じた。その後、アベノマスクやアベノコロナボなど失態が続いた。定額給付金も、6月になっても振り込まれていない地方自治体が少なくなかった。6割以上がダウンロードしないと意味がないアベノアプリも、早速、不具合が生じた。安倍政権の支持率は、6月下旬に、30%弱に落ち込んだ。菅政権も、GOTOキャンペーンにこだわり、政策対応が後手後手に回った。

企業では、オンラインやリモートでの勤務体系が急速に普及した。これからの政治や経済、社会の在り方が大きく問われることになる。毎日、職場に行く意義が薄れたからである。新型コロナウイルス危機は、ワクチンが開発されないことには危機は収束しない。日本だけが新型コロナウイルス危

イルス危機を乗り越えても意味がない。相互依存が深化し、グローバルゼーションがこれだけ進展した、つながり過ぎた世界では、グローバルな規模で新型コロナウイルス危機を乗り越えないといけない。

2021年1月22日の時点で、世界の新型コロナウイルス感染者数は9656万人を超え、死者は209万人を超えた。世界での新型コロナウイルスの感染者は1000万人を越え、死者は50万人を超えた。南アジアや南米諸国でも猛威を振るうこのパンデミックは、アフリカ諸国などの発展途上国へもさらに拡大する見通しである。

ほぼ100年前のスペイン風邪では、第二波と第三波があった。これからもしばらく、新型コロナウイルスとの共存が模索されなければならない。

「ウイルス・コロナ」の世界にこれからもしばらく適応し、ワクチンが開発された後は、「ポスト・コロナ」の世界へ突入する。「100年に一度の疫病危機」と指摘されるが、「第二のパンデミック危機」も起こるかもしれない。その場合、われわれの生活は、一変する。

こんな時代に、われわれは、これまでの生活スタイルと違った工夫が必要である。適度な運動も

必要であるし、新型コロナウイルス危機の今こそ本を読むべきであろう。

たとえば、本屋大賞は、プロの作家が選ぶのではなく、本屋の店員たちが、いちばん売りたい本を選ぶ。読者にとっては、本を購入する時に大きな参考になる。ノミネートされただけでも、書店に山積みで並ぶ。その影響力はきわめて大きいと言っている。また、多くの作品が映画化されている。はじめの本屋大賞は、2014年の小川洋子『博士の愛した数式』であった。小生も読んだが、爽やかな読後感であった。映画化もされた。伊坂幸太郎の『アヒルと鴨のコインロッカー』と『重力ピエロ』の2冊がノミネートされていた。大賞は逃したが、人気の高さを物語っている。その後も彼の小説は、毎回のようにノミネートされていく。

2回目は、恩田陸『夜のピクニック』であった。映画化された。恩田陸は、ミステリから青春もの、ファンタジーまでいろいろなジャンルの小説を編み出している。第5位の伊坂幸太郎の『チルドレン』は、痛快な物語であった。

3回目は、リリー・フランキー『東京タワー オカンと僕と、時々オトン』であった。これは、泣けた。映画化もされた。第2位の奥田英朗の『サウ



スパウインド』、第3位の伊坂幸太郎の『死神の精度』、第4位の東野圭吾の『容疑者Xの献身』は、いずれも映画化された。

4回目は、佐藤多佳子『一瞬の風になれ』である。昔は売れなかったスポーツ小説だ。『バットリ』がベストセラーになってから、スポーツ小説が売れるようになった。第2位の森見登美彦の『夜は短し歩けよ乙女』は、いい意味で、ユニークな作品であった。空飛ぶ天狗が出てきたりする。

5回目は、大学生に人気が高い伊坂幸太郎の『ゴールデン・スランバー』であった。映画化もされた。繰り返しになるが、伊坂幸太郎の小説は、その後も、本屋大賞に何度もノミネートされていく。

6回目は、湊かなえ『告白』である。これは、怖かった。第2の和田竜の『のぼうの城』は、小説も、映画も素晴らしかった。

7回目は、冲方丁『天地明察』である。実話に基づいた興奮する時代小説であった。映画化もされた。第2位の夏川草介の『神様のカルテ』は、感動的な医療小説である。その後、シリーズ化されている。映画化もされた。ただし、映画は面白くはなかった。第8位の有川浩の『植物図鑑』は、食べられる雑草を紹介していくという斬新な作風であった。映画化もされた。

8回目は、東川篤哉『謎解きはディナーのあとで』であった。これも映画化された。第8位の夏川草介の『神様のカルテ2』は、再び感動した。この本は、最近、第5弾が出版された。号泣した。

9回目は、三浦しをん『舟を編む』である。辞書を作るお話であった。これも映画化された。

10回目は、百田尚樹『海賊と呼ばれた男』であっ

た。これも映画化された。第8位の川村元気の『世界から猫が消えたなら』も、映画化された。第10位の冲方丁の『光圀伝』は、圧倒的な歴史小説であった。テレビの『水戸黄門』とはまったく違う光圀像を読むことができる。

11回目は、『村上海賊の娘』であった。これは史実に基づいているが、実写化は難しいのではない。ただし、小生の特にお気に入り作品である。爽快な内容である。

12回目は、上橋菜穂子『鹿の王』である。上橋は、日本を代表するファンタジー作家である。代表作は、『精霊の守り人』シリーズである。NHKがドラマ化している。第10位の川村元気の『億男』は、ユニークなお金のお話であった。

13回目は、宮下奈都『羊と鋼の森』であった。ピアノの調律師のお話である。映画もよかった。第2位の住野よるの『君の膵臓をたべたい』も、ベストセラーになった。映画化もされた。大学生にも好評であった。第8位ながら、東山彰良の『流』は、圧倒的な世界観である。又吉直樹の『火花』は、第10位となったが、芥川賞を受賞している。吉祥寺を舞台として、映画化もされている。

問題は、14回目に再び恩田陸の『蜜蜂と遠雷』が選ばれたことである。しかも、直木賞とダブル受賞という快挙であった。玄人と素人の両方から評価されたのである。国際ピアノコンクールをめぐるお話で、クラシック音楽を実際に聴きたくなるような見事なストーリーである。この本に出逢った時は、本当にたまげた。内容までは語るまい。ぜひとも読んでほしい一冊である。自信をもってお勧めできる、数少ない作品の一つ

である。小生はこれから、恩田陸の作品をまたすべて読み直してみたい、と思っている。いわゆる「作家読み」である。映画も素晴らしかった。第3位には、塩田武士の『罪の声』が入った。映画化もされた。原田マハの『暗幕のゲルニカ』も、ぜひとも読んでみたい。原田マハは、芸術小説の新境地を切り拓いている。第9位ながら、村田沙耶香の『コンビニ人間』も、注目された。第10位の川口俊和の『コーヒーが冷めないうちに』も、ベストセラーになった。映画化もされた。たいてい、小説を読んで感動して、映画を観て、がっかりするが、この映画は面白かった。

15回は、辻村深月の『かがみの孤城』であった。辻村深月は、いろんなジャンルの小説を手がけてきた。第3位には、今村昌弘の『屍人荘の殺人』が入った。これは、コメディ・タッチで映画化された。個人的にお勧めなのは、第4位に入った原田マハの『たゆたえども沈まず』である。

第16回は、瀬尾まいこの『そして、バトンは渡された』であった。第17回目は、凧良ゆうの『流浪の月』であった。この2冊は、まだ読んでいない。新型コロナウイルス危機の間に、読んでおきたい。小生がお勧めするのは、作家読みと表紙読みである。前者は、気に入った作者の作品を一気に読み込むのである。その作家の世界観を知ることができる。後者の表紙読みは、自分が気に入ったデザインの本を読むことである。表紙のデザインが凝っているということは、出版社が売りたい、と考えているだろうからである。本との予期せぬ出逢いに遭遇できるかもしれないというワクワク感があるのである。

高等教育の修学支援制度についてのご案内 (授業料等減免と給付型奨学金)

本制度は経済的に困難な学生への支援制度で、採用されると最大で年間授業料が70万円免除、さらに毎月の給付奨学金が貰えます。これから申し込みを希望する学生は、2021年4月頃、Universal Passport(メール配信システム)や学内掲示板で申し込み方法を案内します。保護者の皆様におかれましては、ご子息・ご息女へ確認のご連絡をお願い致します。

■ 対 象

家計の収入条件・成績条件があります。詳しくは文科省のページをご確認ください。

<http://www.mext.go.jp/kyufu/index.htm>

■ 注意点

1. 家計の収入に応じて給付額・減免額が決まります。
2. 授業料減免は、通常の学納金を全額お支払いいただき、新制度採用決定後に免除分を返金する形になります。
3. 現4年生、大学院生は対象外です。

■ 問い合わせ先

杏林大学 学生支援課 奨学金担当

syogakukin@ks.kyorin-u.ac.jp



令和二年度 総合政策学部杏会
会長
柳田 忠広

皆さま、平素より総合政策学部杏会の活動にご理解・ご協力を賜り、誠に有難うございます。

私たちは現在、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによる、多大な影響下の真ただ中にいます。2020年4月初旬から5月にかけての緊急事態宣言の解除後も、「感染拡大防止」と「経済活動の再開」の双方を前に進めなければならぬという難しい選択に迫られています。

このような状況が続く中、まず、医療従事者並びにエッセンシャル・ワーク、フロントライン・ワークに携わる方々に、心より敬意を表しますとともに、健康と安全をお祈り申し上げます。

総合政策学部学生の皆さんにおかれましては、いずれ人類の知恵がこの不気味なウイルスに必ず勝つことを信じて、日々の暮らしの中で出来ることを確実に、感染防止に取り組みながら、学びを継続し励んでおられることと存じます。

このような従来の常識や価値観が大きく転換し、誰もが経験したことのないニューノーマルな社会が到来しつつある今こそ、総合政策学部のみなさんこそが活躍できるチャンスです。キャンパスの閉鎖、オンライン授業の実施など、杏林大学並びに総合政策学部には、新型コロナウイルス

ルス感染防止に向けた安全対策を講じながら、皆さん一人一人がしっかりと学び成長できる環境が整っています。活動に制限が伴う状況ではありますが、「オンライン」と「リアル」をうまく使い分け、今の状況を前向きにとらえ、充実した学生生活を「自ら考え」創り出してください。

総合政策学部杏会といたしましても、会員各位のご協力を賜りながら、新型コロナウイルス感染症対策を行い、学生皆さん一人一人の学びと成長に資することが出来ますよう活動して参ります。

この新型コロナウイルス禍を会員の皆様、教職員並びに事務局の先生方と共に乗り越え、総合政策学部学生の皆さんが更に充実したキャンパスライフをこの杏林大学で送られることを心よりお祈り申し上げます。

「杏門会」は、平成一四年に総合政策学部の名称変更に伴い、「社会科学部卒業生の会」から改称しました。

杏門会の「杏」は杏林大学の頭文字からいただき、「門」は一緒に学んだ仲間を表しており、杏林大学とともに学んだ場として、この名称が相応しいと考えました。

卒業生の数も10000名を超え、多くの卒業生とご父兄のご厚意により運営しております。

平成二八年四月から八王子キャンパスの学部は、井の頭キャンパスに移転して三鷹に集まることとなり、母校の更なる発展が期待できます。

当会も母校と卒業生の一層の活躍に寄与できるよう活動を進めてゆくつもりです。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

事務局 平本 実

編集後記

今年度も無事に『杏ジャーナル』をみなさまにお届けできることとなりました。ご執筆いただいた方々、ご協力いただいた方々に、この場を借りまして心より御礼申し上げます。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、授業やクラブ・サークル活動、就職活動など、さまざまな場面でこれまでとは違った取り組みが必要になりました。慣れない状況のなかで戸惑うことや不安になることも多かったと思います。こうした状況がいつ落ち着いてくるのか、不確かなところもありますが、いろいろと工夫しながら前向きに取り組んでいきたいと思っております。総合政策学部に関わるたくさんの方々のそうした取り組みを、今後の『杏ジャーナル』などでみなさまにお伝えしていければと思っております。

最後まで読んでいただき、どうもありがとうございました。

杏ジャーナル 編集委員長

斉藤 崇
高田 京子
川村 真理
劉 迪

